

平成 27 年 11 月 2 日

平成 27 年度全国学力・学習状況調査結果

豊能町教育委員会

はじめに

本調査は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証するとともに、学校における教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的に、平成 19 年度より実施されています。

今年度は、平成 27 年 4 月 21 日(火)に悉皆調査として実施され、本町は、全小学 6 年生(4 校 136 名)、全中学 3 年生(2 校 145 名)が参加しました。

調査内容は、教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)と生活習慣や学習環境等に関する調査があります。教科に関する調査は、国語、算数・数学は「主として『知識』に関する問題」(A 区分)と「主として『活用』に関する問題」(B 区分)に分けて実施されました。平成 24 年度以来、3 年ぶりに実施された理科については「主として『知識』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」が一体的に出題されました。

【1】学力調査全体概要

豊能町の平均正答率は、大阪府、全国の平均正答率を上回っています。

※但し、本調査において測定できる学力は、特定的一部分です。

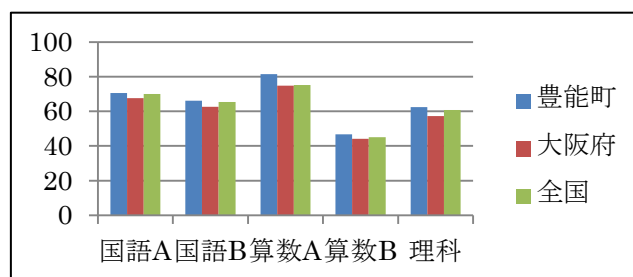
小学校においては、全国の正答率を 1 としたポイント差でみると、算数 A では 6.2 ポイント上回ったのをはじめ、国語においてはポイント差が少ないものの、全ての教科区分において全国、大阪府ともに上回っています。

中学校においては、同様のポイント差でみると、いずれの教科区分においても全国、大阪府を 6 ポイント以上上回り、数学 A においては 9 ポイント以上上回っています。

小学校、中学校ともに算数・数学の「主として『知識』に関する問題」の正答率が高かったです。

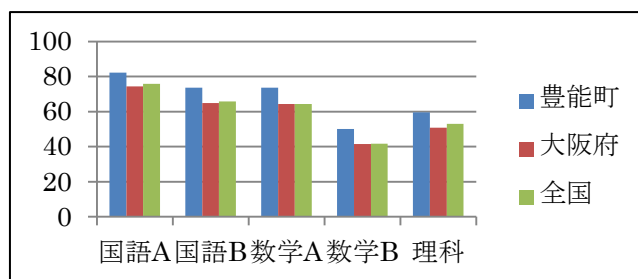
〔小学校〕 各教科区分の平均正答率 (%)

	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
区 分	知識	活用	知識	活用	一体
豊能町平均	70.6	66.2	81.4	46.8	62.4
大阪府平均	67.6	62.7	74.8	44.1	57.3
全国平均	70.0	65.4	75.2	45.0	60.8



〔中学校〕 各教科区分の平均正答率（％）

	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
区 分	知識	活用	知識	活用	一体
豊能町平均	82.3	73.7	73.7	50.1	59.5
大阪府平均	74.4	64.8	64.3	41.4	50.9
全国平均	75.8	65.8	64.4	41.6	53.0



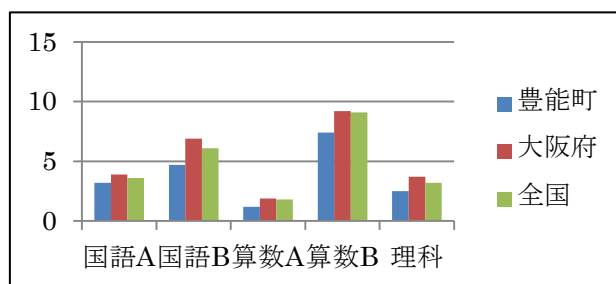
無答率について

豊能町の平均無答率は低く、粘り強く取り組む姿勢が表れていました。

無回答率は問題に取り組む意欲を見取る指標にもなります。本町の各教科の平均無答率は、小学校、中学校ともに全国より低い結果でした。児童生徒質問紙の「最後まで解答を書こうと努力した」「分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える」などの項目に対する回答が小学校、中学校とも肯定的であることから、豊能町の子どもたちのあきらめずに取り組もうとする姿がうかがわれました。

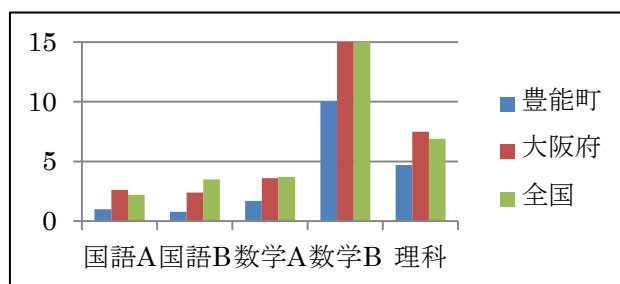
〔小学校〕 各教科区分の平均無答率（％）

	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
区 分	知識	活用	知識	活用	一体
豊能町平均	3.2	4.7	1.2	7.4	2.5
大阪府平均	3.9	6.9	1.9	9.2	3.7
全国平均	3.6	6.1	1.8	9.1	3.2



〔中学校〕 各教科区分の平均無答率（％）

	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
区 分	知識	活用	知識	活用	一体
豊能町平均	1.0	0.8	1.7	10.0	4.7
大阪府平均	2.6	2.4	3.6	15.8	7.5
全国平均	2.2	3.5	3.7	17.7	6.9



経年変化について

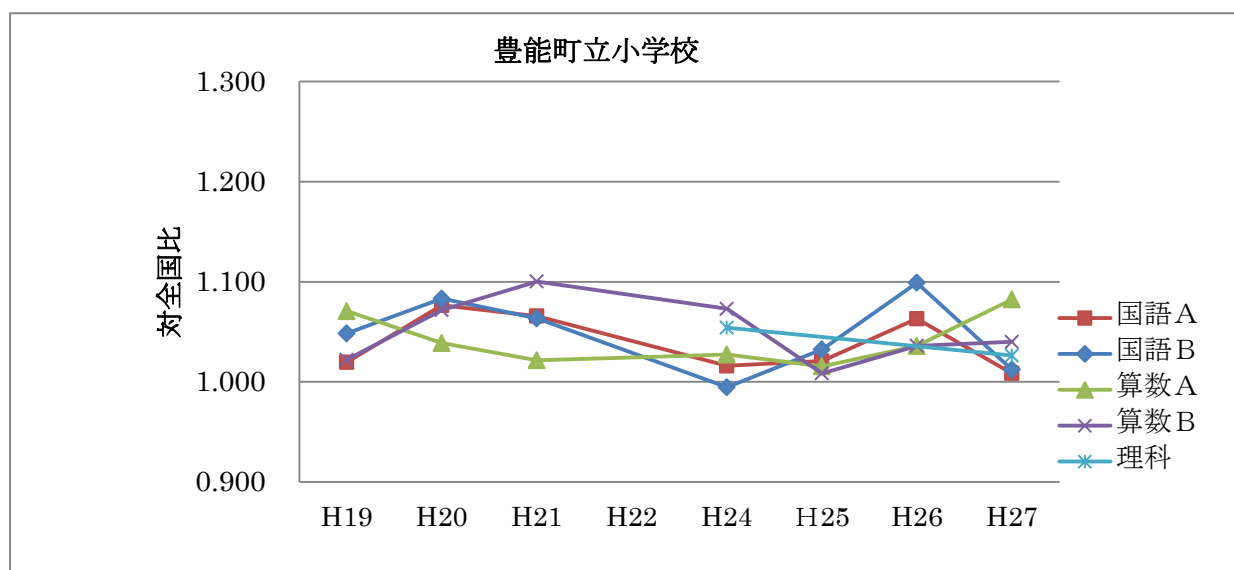
今回を含めて8回実施されました。実施された年度ごとの平均を、全国平均を1として、豊能町と全国の正答率を比較しています。全国とのその年度ごとの相対的な関係が見ることができます。調査対象の児童生徒は、年度ごとに違いますので、一律には比較ができませんが、下記のような状況を見ることができます。

※平成23年度は、震災により、実施されませんでした。

[小学校]

小学生は、算数は上昇傾向ですが、国語は全国平均近くまで下降しました。

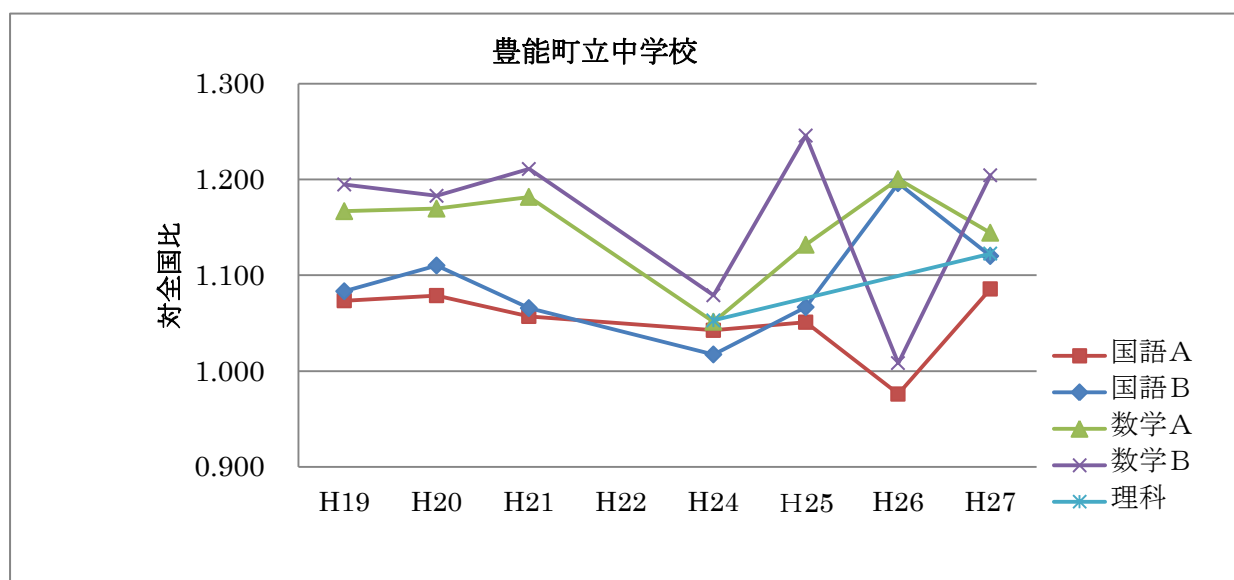
国語では、「知識」「活用」とも昨年度より下降し、全国平均を若干上回りつつも全国平均に近づくかたちになりました。算数は、主として「知識」に関する区分では、H25年度を境に回復傾向で、今年度も上昇し、良い結果となっています。



[中学生]

中学生は、大きく上昇した教科もあり、全体的に安定しました。

昨年度大きく下がった国語A、数学Bにおいて、今年度は上昇し、理科も緩やかですが、上昇が見られます。



【2】学力調査 教科・区分別概要

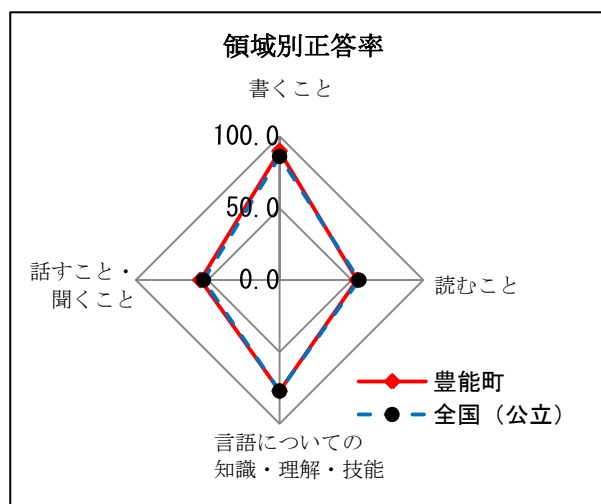
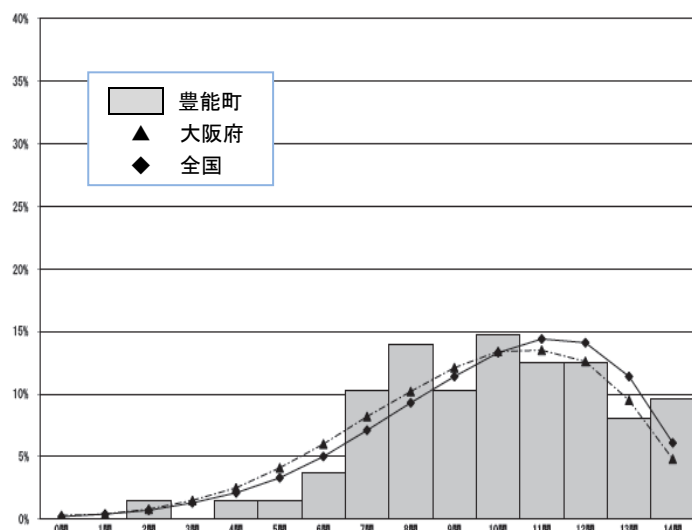
小学校、中学校の教科・区分別の結果を正答数の分布グラフ及び領域別の正答率グラフで表しています。また、町として、特徴のあった問題について記しています。○は全国に比べよくできている問題、

●は課題のみえる問題、() は正答率(%)です。平成27年度の調査問題については、文部科学省のホームページに掲載されていますのでそちらをご覧ください。

国立教育政策研究所 <http://www.nier.go.jp/15chousa/15chousa.htm>

〔1〕小学校国語 A 区分問題(「知識」に関する問題)について

◆ 平均正答率は、大阪府より3.0ポイント、全国より0.6ポイント上回っています。全国の線グラフの山より左側に大きな棒グラフの山があり、中間層から下位にも少し広がっていることがわかります。例年の課題である「書くこと」については全国を3.7ポイント上回りましたが、「読むこと」については全国を1.3ポイント下回りました。



○〔1〕 漢字を読む・漢字を書く問題

友人を家に招く 「招く」の漢字の読み (町 97.8 府 97.3 全国 97.5)

びょういんに行く 「病院」の漢字の書きなど (町 89.0 府 74.3 全国 74.9)

・日頃よく使うことばの読み書きは正答率が高いですが、日頃なじみのない言葉への理解には課題があります。

●〔5〕 コラムの中で筆者が引用している言葉を書きぬく問題 (町 17.6 全国 19.8)

・無答率も高く (町 11.0 全国 7.7)、「引用」という言葉の理解、引用した場合は「 」でくくるということについての理解の弱さが見えます。実生活で活かされる国語の能力として、目的に応じて適切に引用することができるように、かぎ(「 」)で括ることなど引用の仕方を指導するとともに、引用したことについて児童が自分の思いや考えを書くことなども指導していく必要があります。

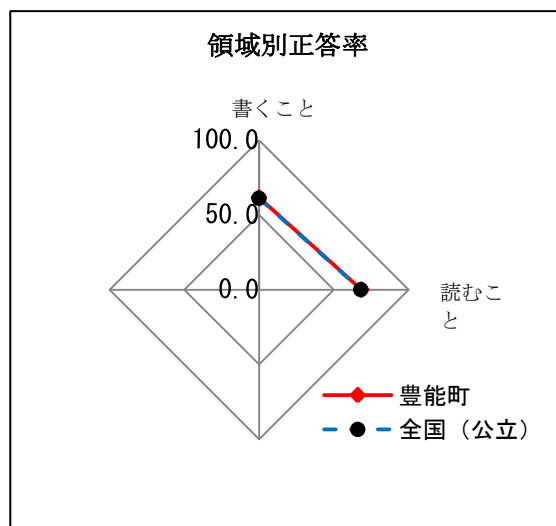
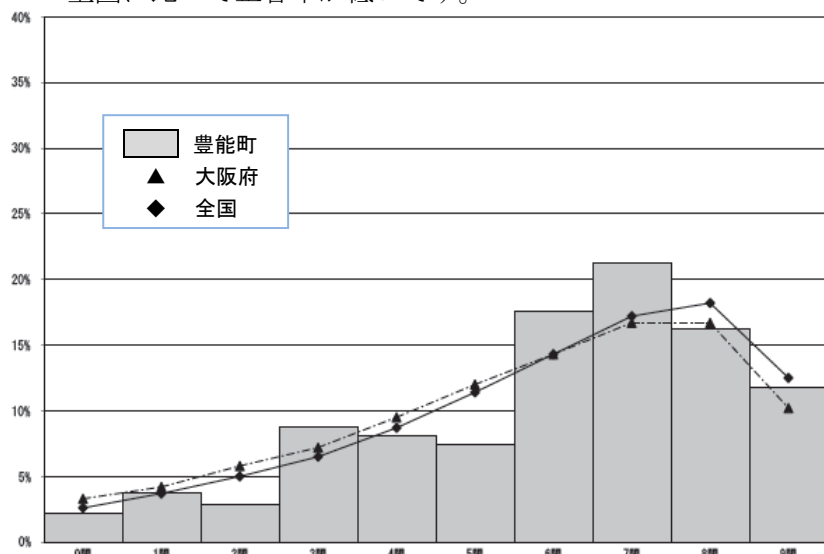
〔7〕 作品募集の案内を読み、必要な情報を読み取る問題 (町 66.96 全国 73.9)

・応募のきまりを守っていないものを選んで番号を書くことや「必着」という言葉の理解などが弱いようです。

〔2〕小学校国語 B 区分問題(「活用」に関する問題)について

◆ 平均正答率は、大阪府より 3.5 ポイント、全国より 0.8 ポイント上回っています。

問題形式が選択式では正答率 71.6（全国 68.6）で良いのですが、記述式では 54.8（全国 55.4）と若干全国に比べて正答率が低いです。

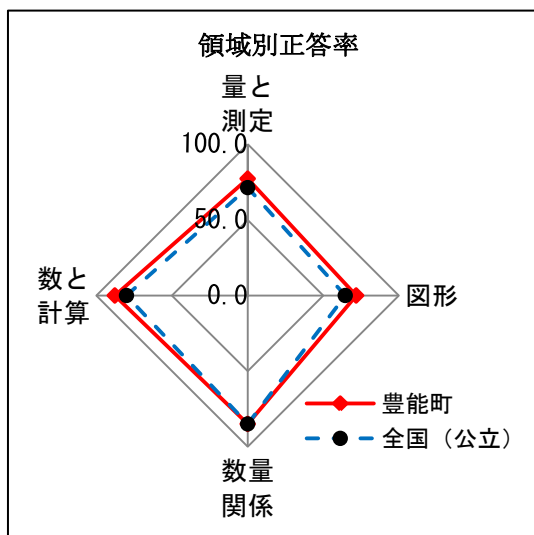
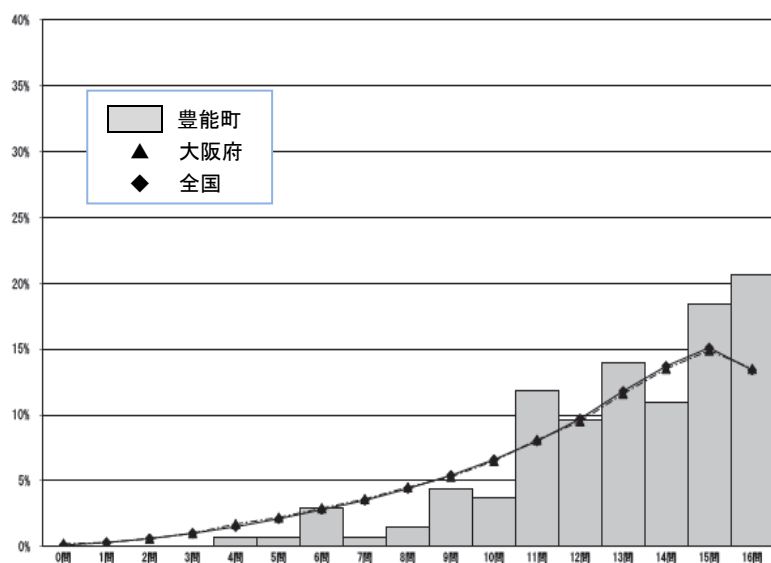


○ 〔3一〕 登場人物の行動を基にして、場面の移り変わりを捉える問題（町 64.0 府 58.2 全国 60.4）
・登場人物の行動や会話、情景を基にして、場面の移り変わりを捉えることが、全国平均よりもできていました。

● 〔2三〕 文章と図を関係付けて自分の考えを書く問題（町 39.0 府 38.6 全国 41.6）
・町でも全国でも一番正答率の低かった問題です。回答の条件を 2 つ以上出された時に、一つの条件はみたしているものの、もう一つの条件は満たしていない誤答例が多く見られました。（34.6）

〔3〕小学校算数 A 区分問題(「知識」に関する問題)について

◆平均正答率は、大阪府より 6.6 ポイント、全国より 6.2 ポイント上回っています。正答率分布のグラフを見てみると、豊能町の児童のグラフは全国より右寄り（正答率が高い方）になっており、全問正解した児童の割合が一番多くなっています。



○ **2** (数と計算) $6.79 - 0.8$ を計算する。(町 77.9 府 69.5 全国 69.5)

$5/6 \div 7$ を計算する。(町 94.9 府 83.4 全国 84.2)

6 (図形) 直方体の見取図と展開図を関連付けて、面の大きさや位置関係を求める問題 (町 85.3 府 75.3 全国 75.4)

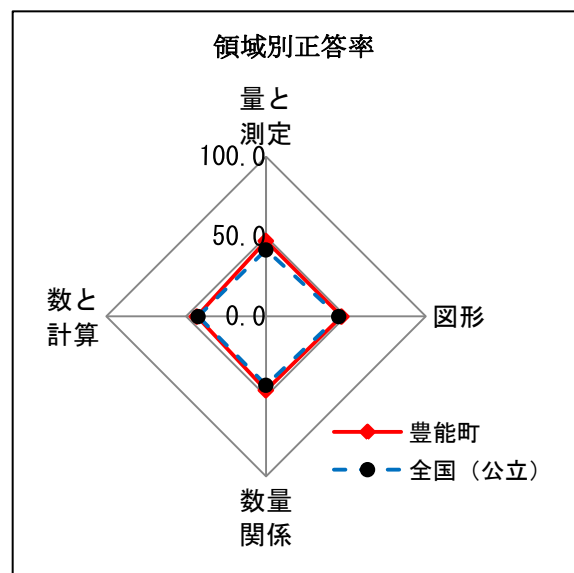
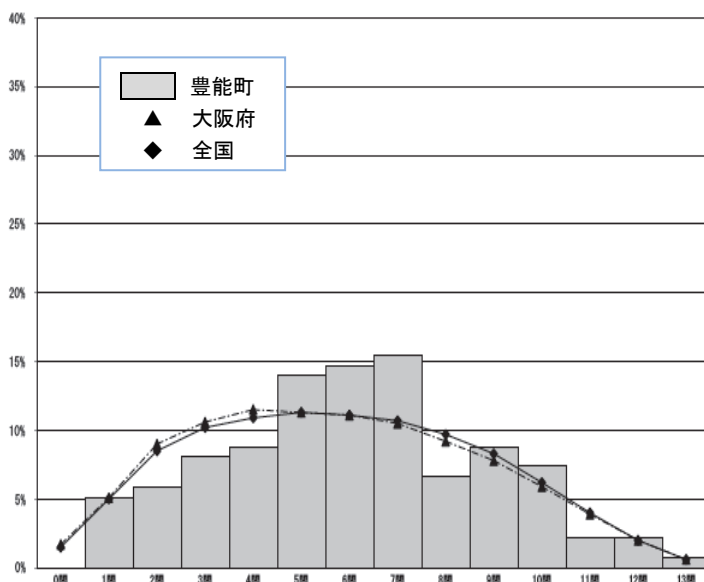
・領域別正答率は、3つの領域(数と計算・量と測定・図形)で全国を上回りました。小数や分数の計算は相当数の児童が理解できています。

● **5(1)** 示された三角形が二等辺三角形になる根拠となる円の性質を選択する問題 (町 53.7 府 49.9 全国 50.6)

・町でも、全国でも正答率が一番低かった問題です。二等辺三角形になる根拠を円の性質と関連付けて判断することに課題がありました。図形の学習をするに当たって図形の構成を図形の特徴と関連付けてとらえることができるようにする必要があります。

〔4〕小学校算数 B 区分問題(「活用」に関する問題)について

◆平均正答率は、大阪府より 2.7 ポイント、全国より 1.8 ポイント上回っています。全国のグラフの山より町は右よりに中心があり、中位層が厚くなっています。



○ **5(2)** 図形の示された部分の面積を求める問題 (町 55.1 府 46.7 全国 47.8)

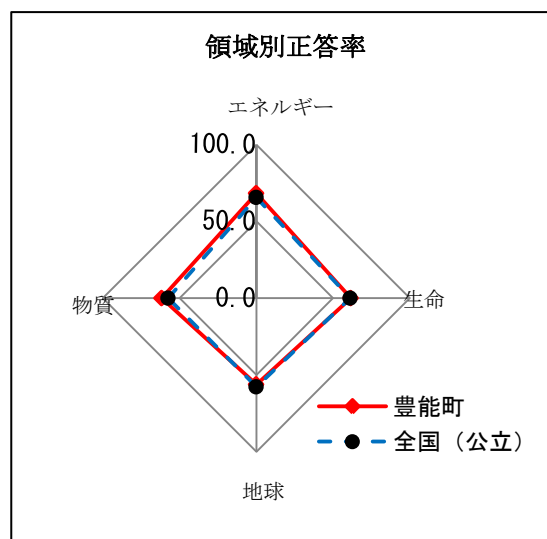
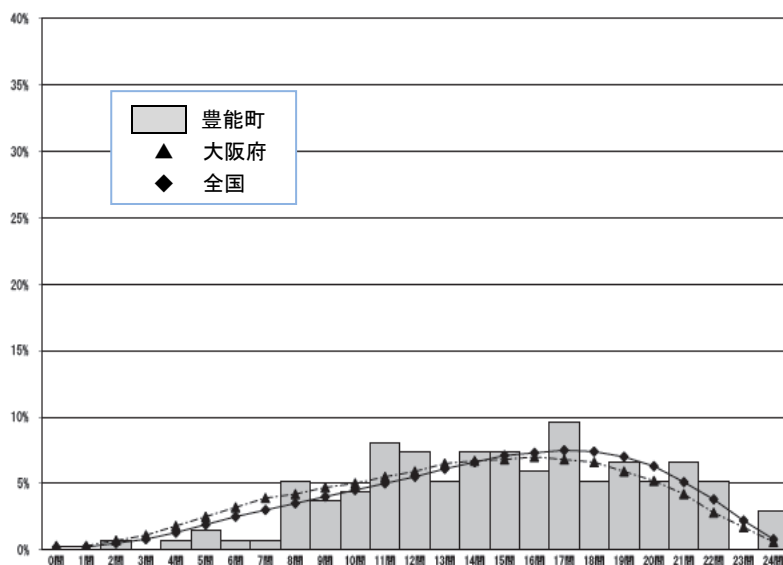
・全ての領域で全国平均を上回り、特に量と測定の領域が良い結果となりました。記述式の問題で無答率が全国よりも低く、記述式の問題も頑張って書こうとする姿が見られました。

● **2(2)** 比較量と割合から基準量を求める問題 (町 16.2 府 13.1 全国 13.1)

・町の中で一番正答率が低かった問題です。「割合」の意味理解については継続的な課題です。割合の意味を理解するためには基準量と比較量、割合の関係を的確にとらえることが大切です。これらの関係を数直線で表す等、数量の関係を整理し表現する学習を充実させる必要があります。日常生活において、20%増量、30%引きなど、割合が様々な場面に用いられています。学習したことを日常生活と結びつけて考えることの充実が求められます。

[4]小学校理科 について

◆平均正答率は、大阪府より 5.1 ポイント、全国より 1.6 ポイント上回っています。



○ 1(2) 振り子時計の進み方を調整する内容を選ぶ問題 (町 69.9 府 57.7 全国 61.2)

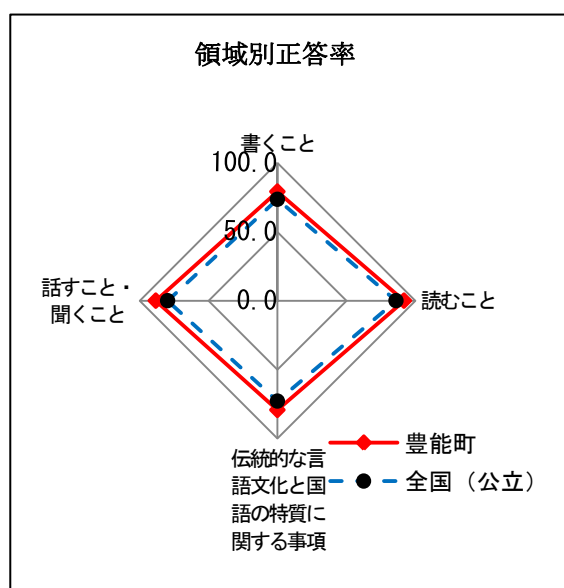
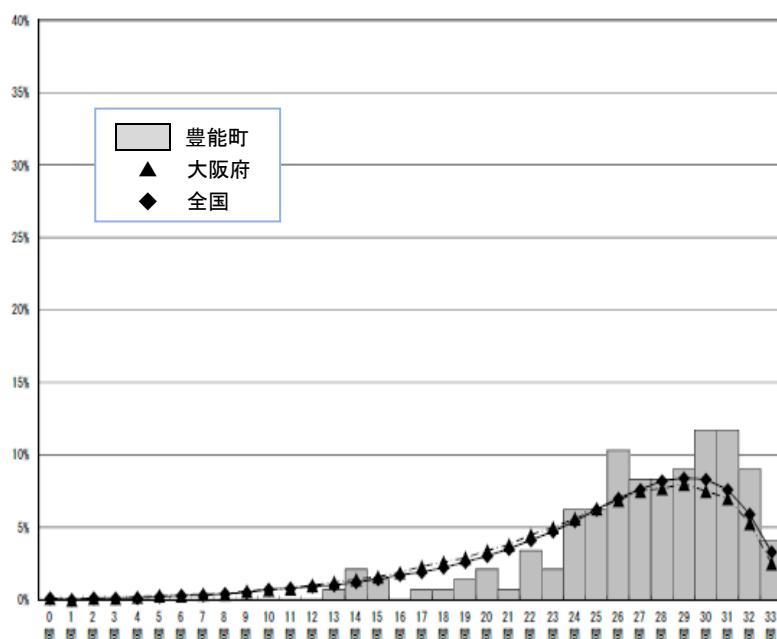
・おもりを軸に沿って上げると振り子の1往復する時間が短くなることを理解できている児童が多いようです。

● 2(1) メダカのめすとおすを見分けるために観察する部分を選択する問題 (町 71.3 府 75.1 全国 78.0)

・メダカの雌雄を意識して観察していない、メダカの雌雄では、せびれやしりびれの様子に違いがあることや名称の理解が十分でなく、知識の定着に課題があると考えられます。

[6]中学校国語 A 区分問題(「知識」に関する問題)について

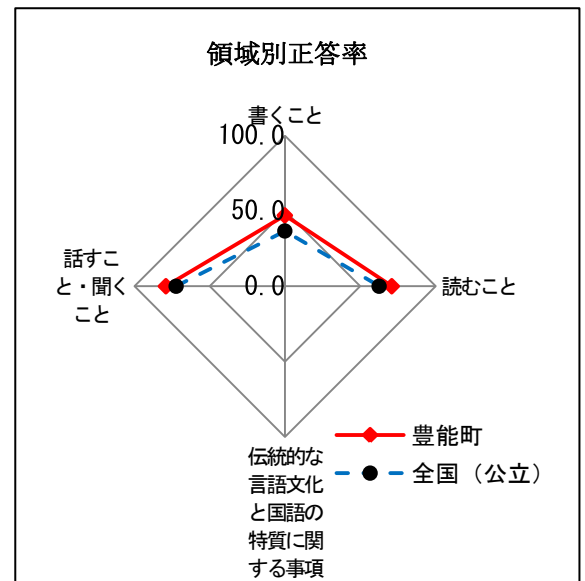
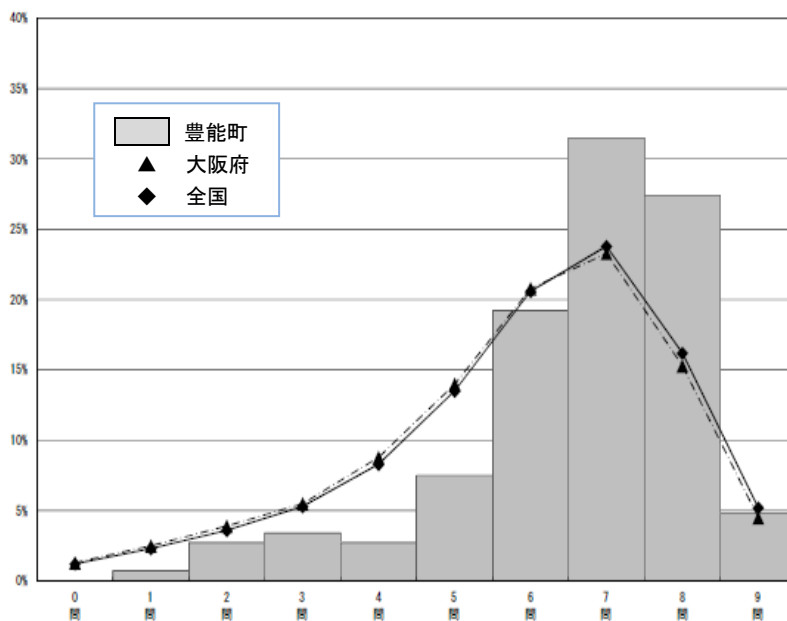
◆ 平均正答率は、大阪府より 7.9 ポイント、全国より 6.5 ポイント上回っています。



- **3一** 表現の技法について理解する問題 （町 80.0 府 59.8 全 58.3）
 - ・全国より 20 ポイント以上高い正答率です。擬態語の表現技法について、名称と結び付けて理解できている生徒が多いようです。
- **9四** 適切な品詞を選択する問題
 - 「青い」（町 62.8 府 63.3 全国 62.3）「青さ」（町 41.4 府 36.3 全国 33.7）
 - ・全体的に正答率の低い問題で、単語の文法的な役割の理解に課題があると考えます。

〔7〕中学校国語 B 区分問題（「活用」に関する問題）について

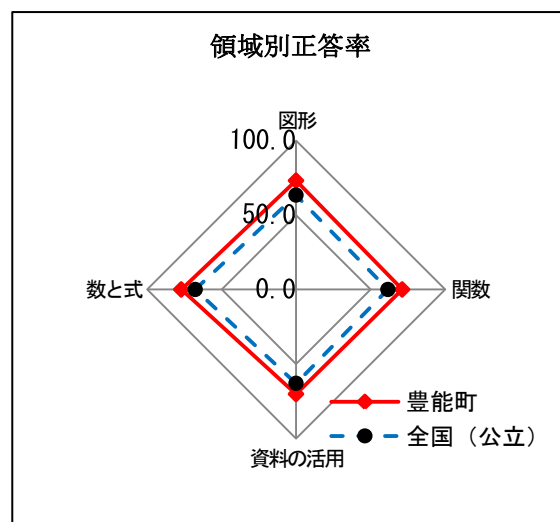
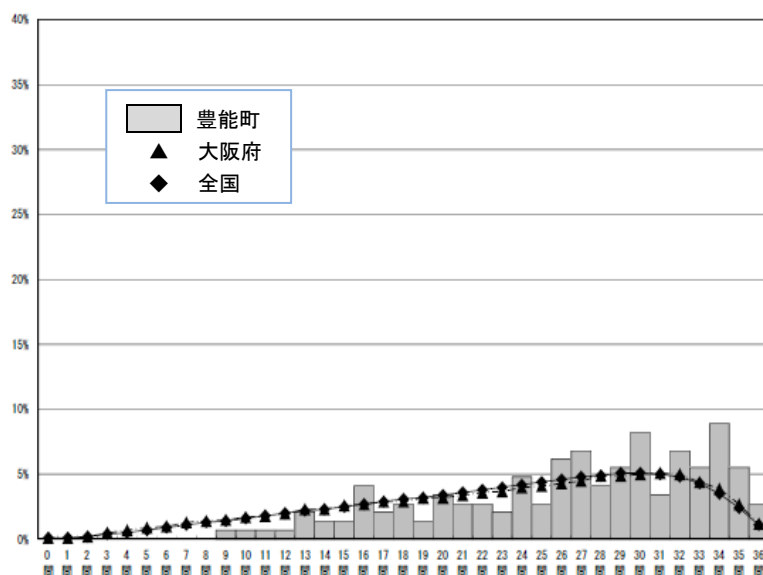
◆ 平均正答率は、大阪府より 8.9 ポイント、全国より 7.9 ポイント上回っています。



- **3一、二** 表現の工夫について自分の考えをもつ問題
 - ・選択式の読む力の問題で、一は 96.2（全国 88.6）、二は 91.1（全国 82.6）と高い正答率でした。
- **1三** 資料の提示の仕方を工夫し、その理由を書く問題 （町 65.8 府 55.6 全国 56.2）
 - ・記述式の問題は苦手な傾向がありましたが、この問題は全国、府に比べ約 10 ポイント上回っています。
- **2三** 複数の資料から情報を得て、自分の考えを具体的に書く問題（町 39.0 府 21.6 全国 23.0）
 - ・全体的に正答率が低い問題でしたが、本町の生徒たちも半分以上が、多様な情報に問題意識を持って社会との関わりを考えながら書くことに課題が見えます。思考力・判断力・表現力の育成が求められています。

〔8〕中学校数学 A 区分問題（「知識」に関する問題）について

◆ 平均正答率は、大阪府より 9.4 ポイント、全国より 9.3 ポイント上回っています。全教科・区分の中で対比ポイント数が最も高く、数学の基本的な知識の問題はよくできていたようです。



- **3(4)** 簡単な連立二元一次方程式を解く問題 (町 72.6 府 58.2 全国 56.8)
- 4(1)** 基本的な作図、図形の対称性の理解をはかる問題 (町 73.3 府 60.5 全国 59.1)
- 10(3)** 比例グラフから x の領域に対する y の変域を求める問題 (町 64.4 府 50.6 全国 49.3)

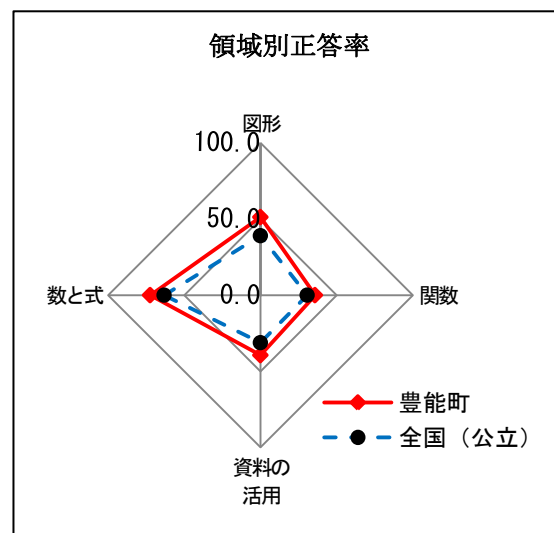
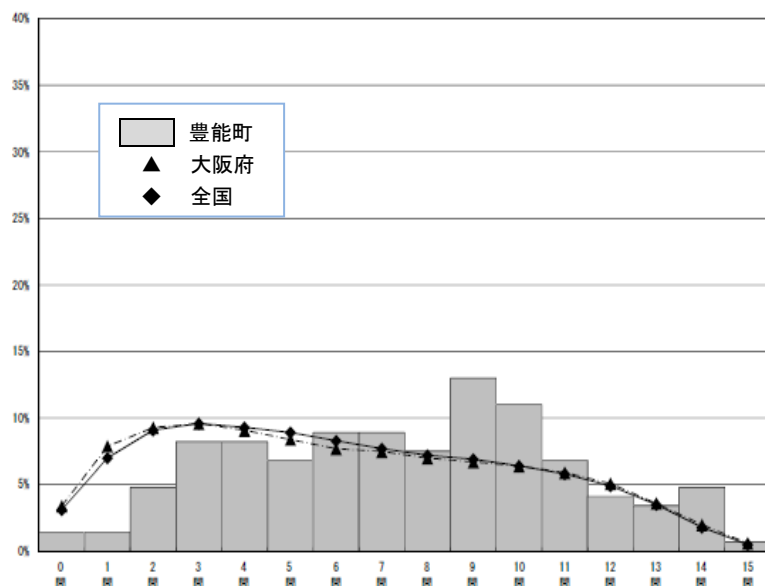
・いずれも全国的には正答率があまり高くなかった問題ですが、本町の結果は6割を超えていました。大半の生徒が基本的な方程式や作図を理解し、比例グラフを視覚的に捉えて変域を求めることができていたようです。無解答率も8.2と全国17.2、府16.2に比べ低い数字でした。

- **2(2)** 数量の関係を文字式に表わす問題 (町 35.6 府 23.8 全国 22.2)
- 13** 二元一次方程式の解を座標とする点の集合は直線であるということが理解できているかの問題 (町 38.4 府 38.8 全国 37.9)

・いずれも全国的にも正答率の低い問題でした。**2(2)** は「3/5倍」を取り違えての誤答が51.6%もあり、文に書かれた関係を図や文字式に表わすことに課題があります。**13** は二元一次方程式の解は整数のみと間違えて捉えている生徒が少なからずいるとみられ、一次関数グラフとの関係についての理解も十分でないことがうかがわれます。

[9]中学校数学 B 区分問題(「活用」に関する問題)について

◆ 平均正答率は、大阪府より8.7ポイント、全国より8.5ポイント上回っています。山が全体的に広がり、下位層にも集まっている部分もあります。



○ **3(1)** 平面図形と空間図形の特徴をとらえる問題 (町 59.6 府 41.9 全国 42.6)

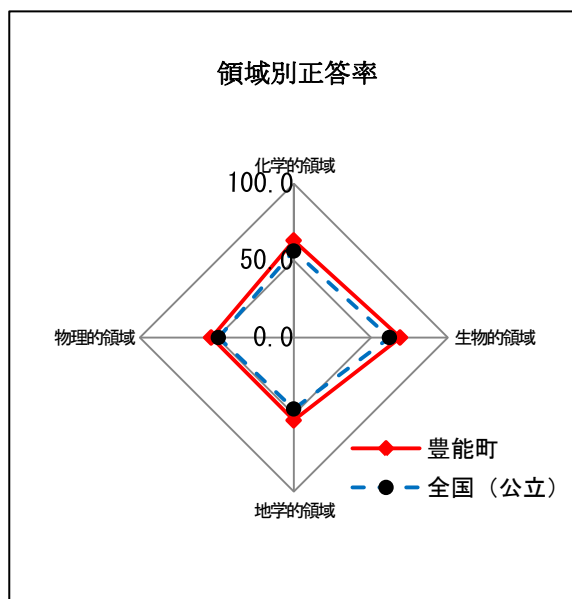
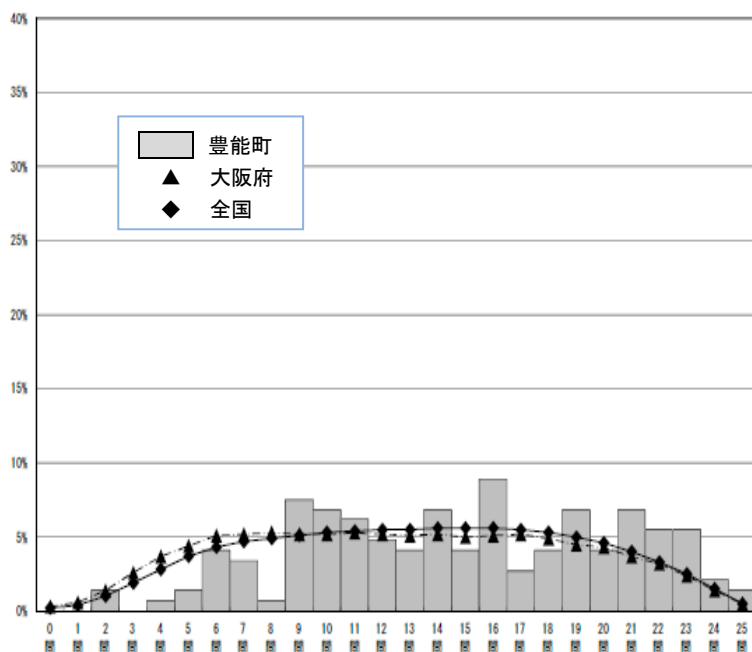
・全国と比較して 17 ポイントも上回った正答率でした。大半の生徒が空間図形を平面上で考察し表現することができました。しかし、同様の問題でも **3(2)**のように考察を説明する記述式の問題では無解答率が 33.6 (府 48.9 全国 48.2) と多く、図形の特徴を考察して表現することへのさらなる指導が必要です。

● **1(3)** 事象を式の意味に即して解釈し、数学的に説明する問題 (町 8.9 府 11.5 全国 11.7)

・正答率が 10%にも満たず全国や府より下回りました。事象から「反比例」という関係を見出し、表現できることに大きな課題があります。生徒質問紙の (59)「数学の勉強は大切な」(64)「数学は社会に役立つか」の質問に対する肯定的回答が全国や府に比べて低い結果であることにも関連しているものと思われます。日常的な事象について言葉で表された式の数学的な意味を理解すること、事柄を数学的な表現を用いて説明することに留意した指導が大切です。

〔10〕中学校理科について

◆ 平均正答率は、大阪府より 8.6 ポイント、全国より 6.5 ポイント上回っています。全国と同じような分布状況ですが、中間層が厚いようです。主として「知識」に関する問題は 70.5 (府 60.8 全国 63.8)、主として「活用」に関する問題は 55.3 (府 46.9 国 48.8) の正答率でした。



○ **1(1)** 塩化ナトリウムを化学式で表す問題 (町 96.2 府 78.4 全国 79.6)

・正答率が一番高かった問題です。対比全国も 16.6 ポイントと良く、多くの生徒が化学式についての理解ができているようです。また、**2(1)** 天気の記号から風力を読み取る問題 (町 86.3 府 72.4 全国 77.9) や **5(1)** オームの法則を使って抵抗を求める問題 (町 66.4 府 58.6 全国 59.6) など自然事象についての知識・理解をはかる問題は良くできていました。

2(3) 他者の考察を検討して改善し、水の状態変化と関連付けて雲の成因を説明する問題

(町 33.5 府 13.5 全国 14.5)

・全国や府に比べては倍ぐらいの正答率でした。しかし、半分以上誤答であることから、科学的な思考を記述で表現することに課題が見られます。

● 1(3) 水上置換法では二酸化炭素の体積を正確に量れない理由を説明する問題

(町 52.1 府 47.5 全国 53.0)

・全国を 0.9 ポイント下回り、無回答率も 15.8 (府 22.8 国 18.8) と比較的高かった問題です。二酸化炭素の特性についての知識を身につけたうえで、科学的な思考・表現を活用して記述においても説明できるような力をつけていく指導が必要と思われます。

【3】学習状況調査 結果概要

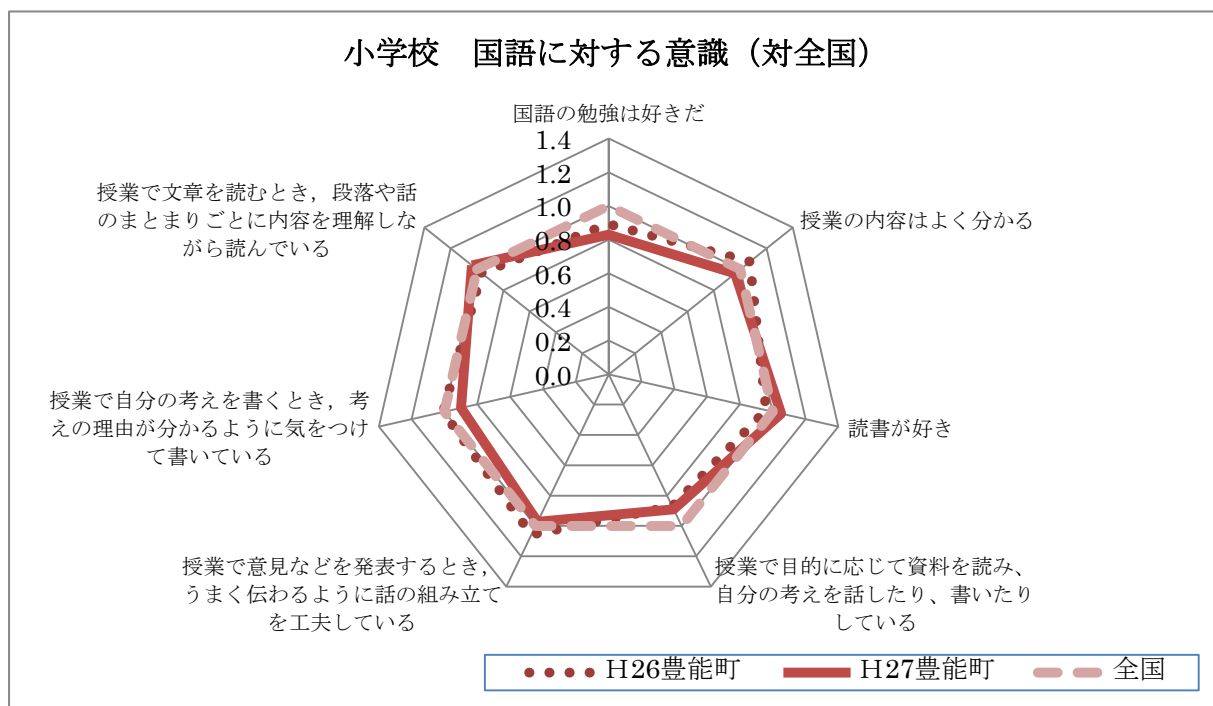
児童生徒質問紙および学校質問紙調査の結果に基づき、「学習・学習意欲に関わること」「生活・その他に関わること」について主なものをチャートあるいはグラフ化しました。

学習・学習意欲に関わること

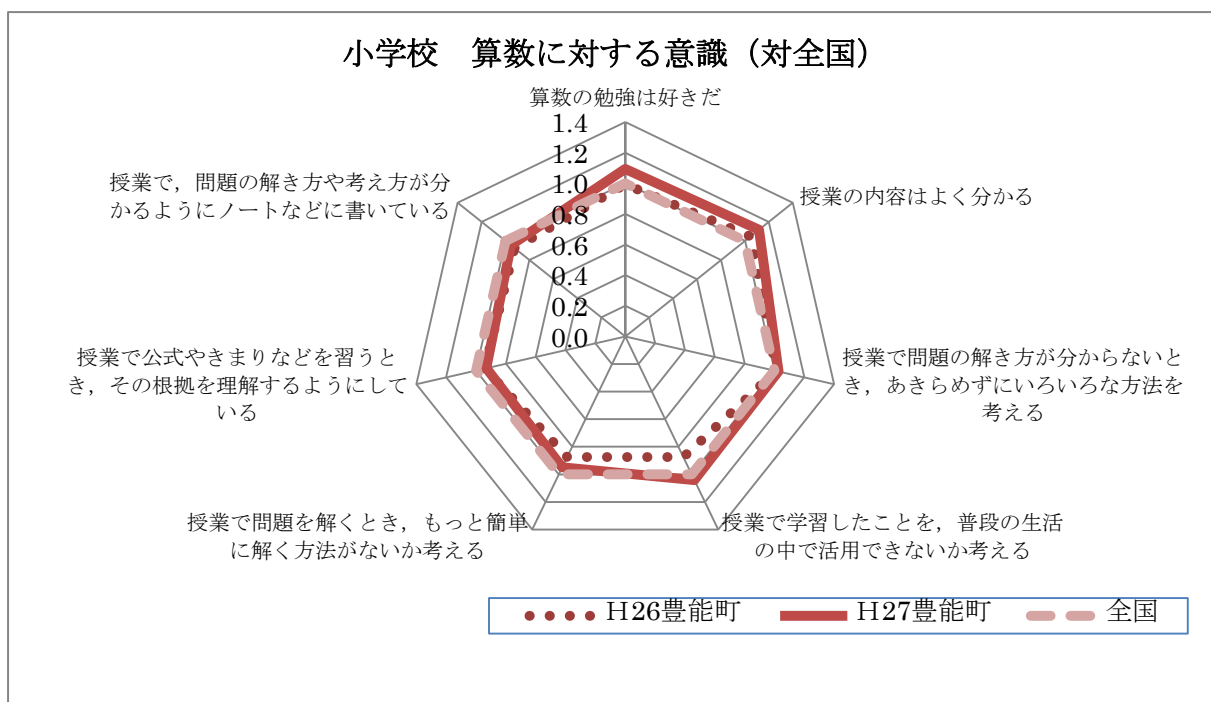
以下のレーダーチャートは全国平均を 1 として、本町の肯定的な回答（当てはまる、どちらかといえば当てはまる）をした割合を表しています。（ ）内の数字は%です。

読書、算数の勉強が好きだと思う児童は増えましたが、国語に対する意識に課題があります。

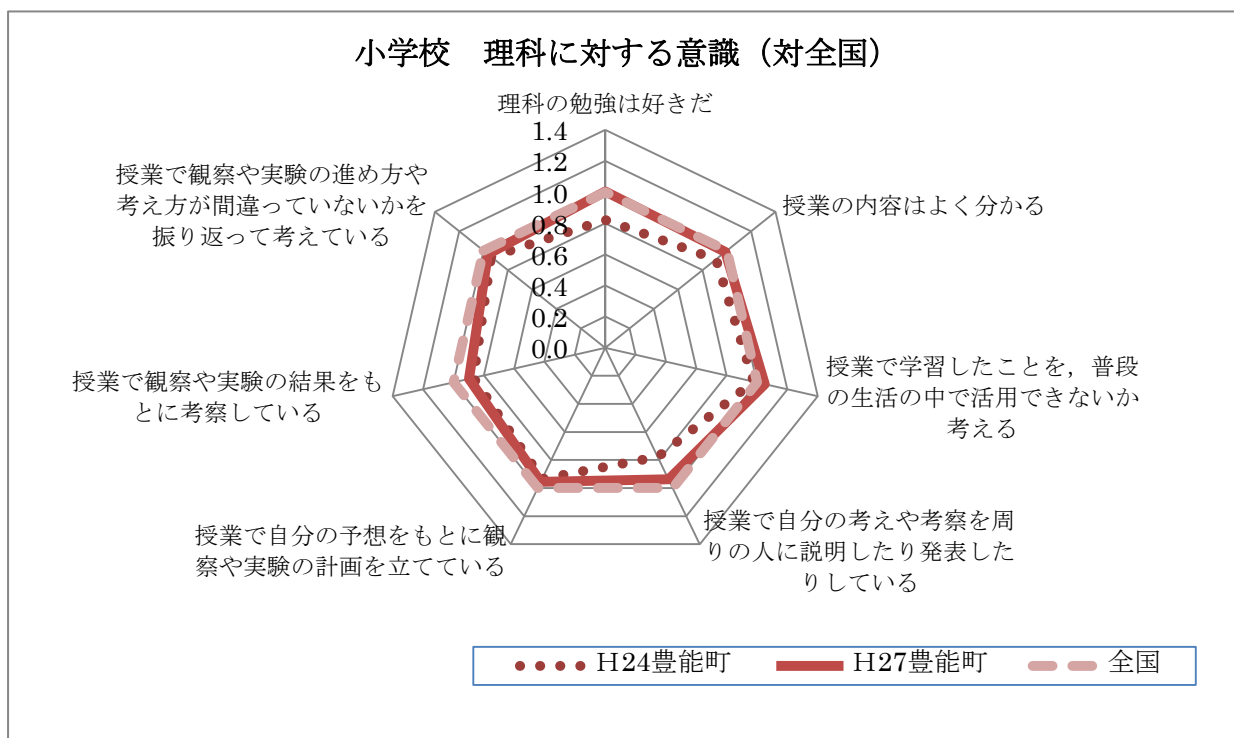
<小学校>



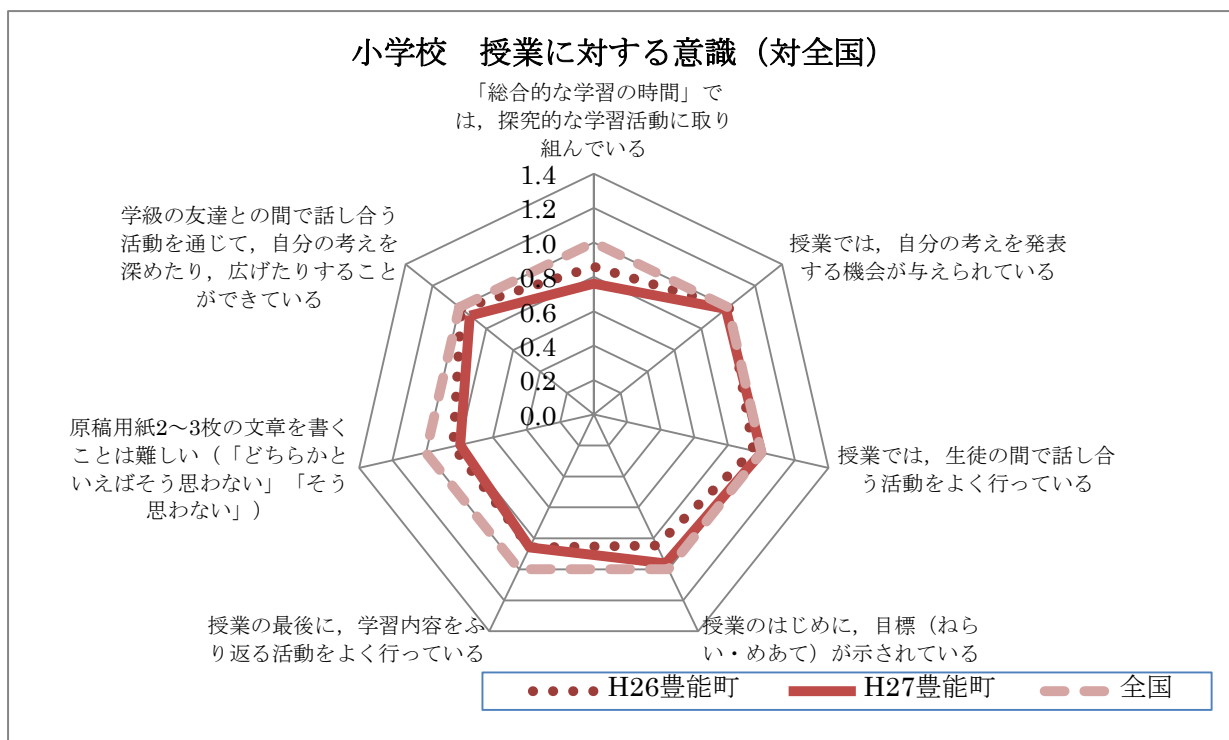
◆ 国語が好き (町 12.5 国 24.8)、内容がわかる (町 31.6 国 37.5) 大切だと思う (町 58.1 国 65.9) といずれも全国を下回っています。文を読むのは好きだが、国語は苦手という児童が多いようです。



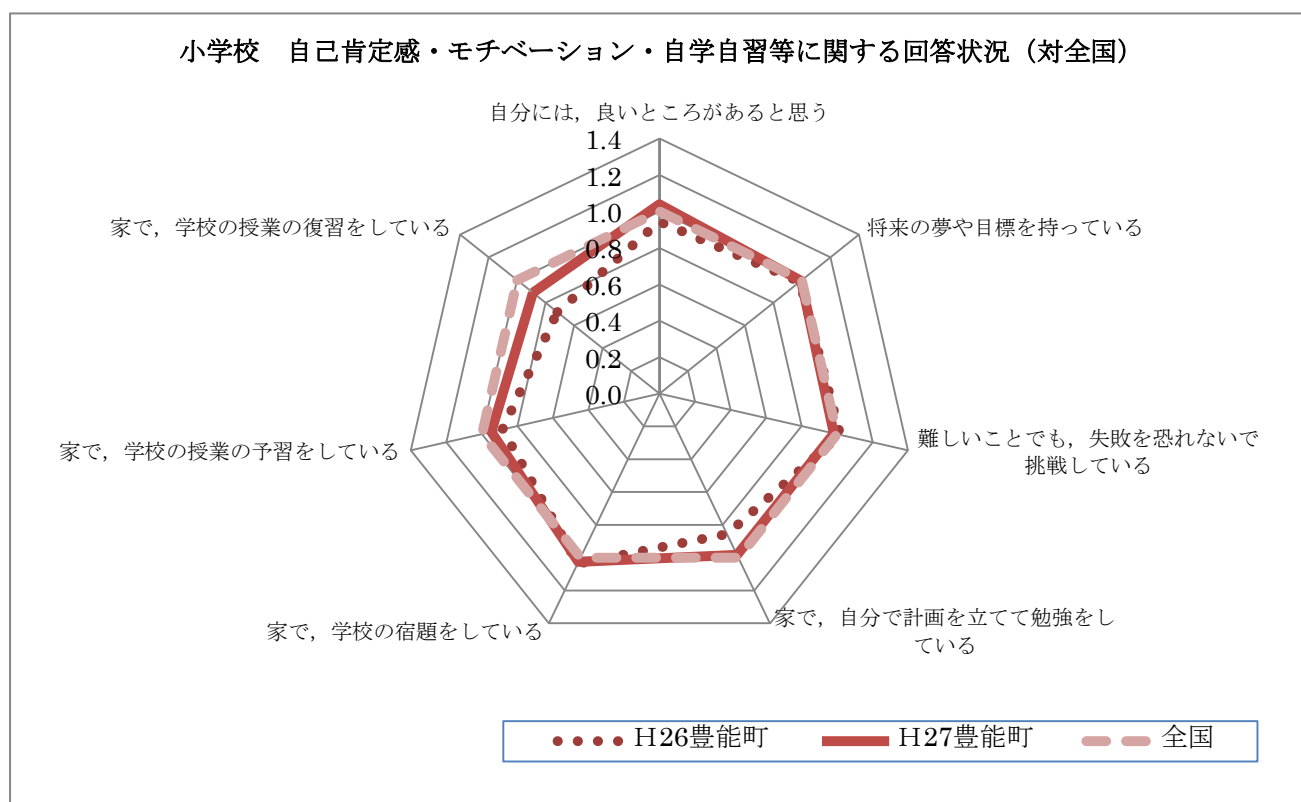
◆ 算数に関しては、授業の内容がよくわかる（町 51.5 国 46.9）、問題を解くときあきらめずに方法を考える（町 47.1 国 45.5）などについて全国を上回っています。算数が好き、普段の生活で活用を考えるなどの項目も「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」など肯定的な回答が全国を上回っています。



◆今年度の6年児童は、大阪府の専科加配事業で中学校の理科の教員の授業を受けていました。その成果があつてか、どの項目も全国平均に近づき、理科に対する意識が改善されました。

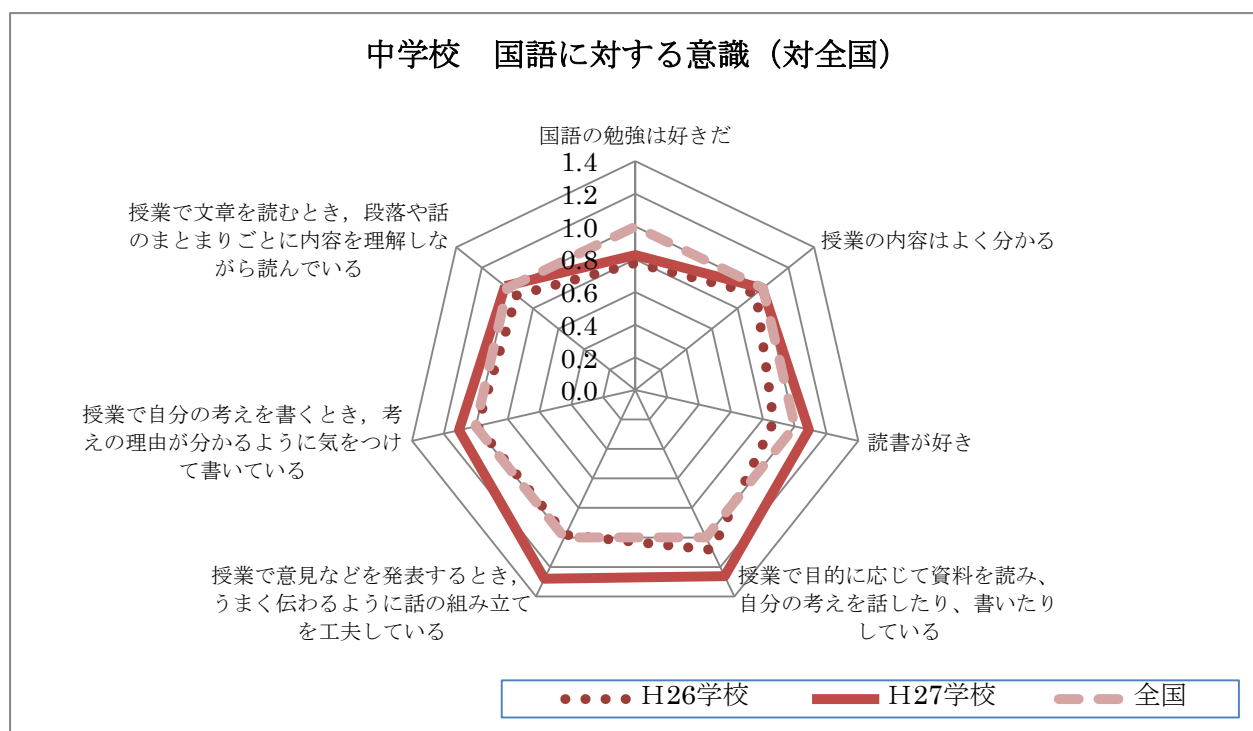


◆話し合う活動を取り入れた授業（町 85.3 国 85.2 ）や授業のはじめに目標を明示する（町 83.1 国 86.3 ）など授業の工夫改善がみられる一方、総合的な学習の時間において探究的な学習活動をもっと取り入れていく必要があると考えられます。（町 50.0 国 65.8 ）

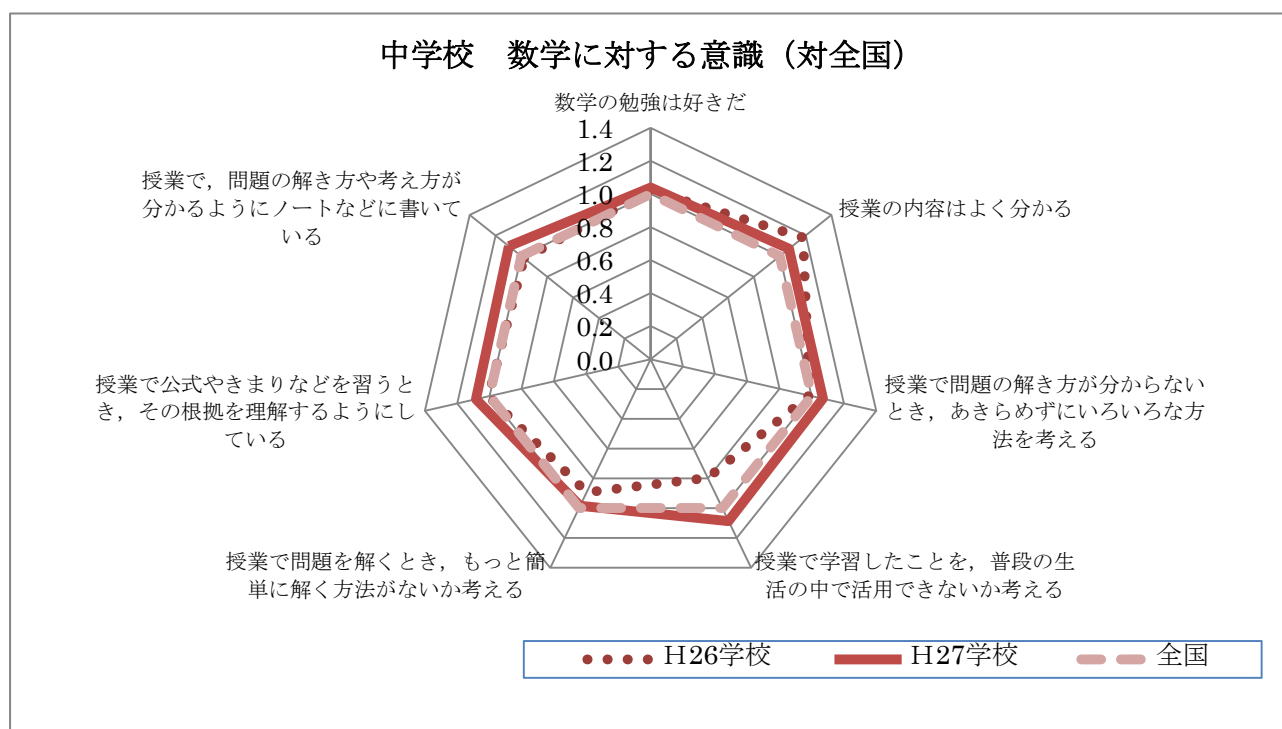


◆自己肯定感やモチベーションは全国とほぼ同様です。家庭学習については昨年度に比べ、改善されたようですが、宿題以外にも復習など自学自習する習慣をつけていく必要があります。

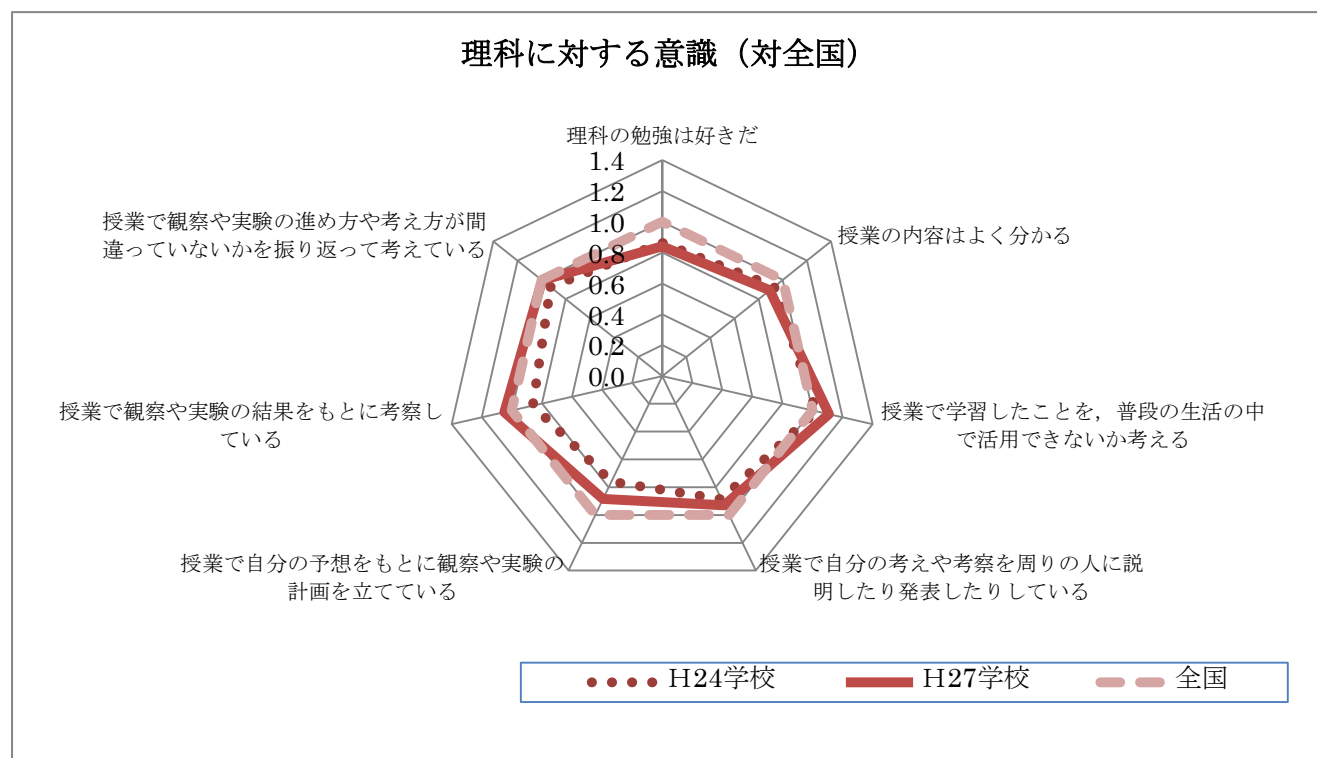
< 中学校 >



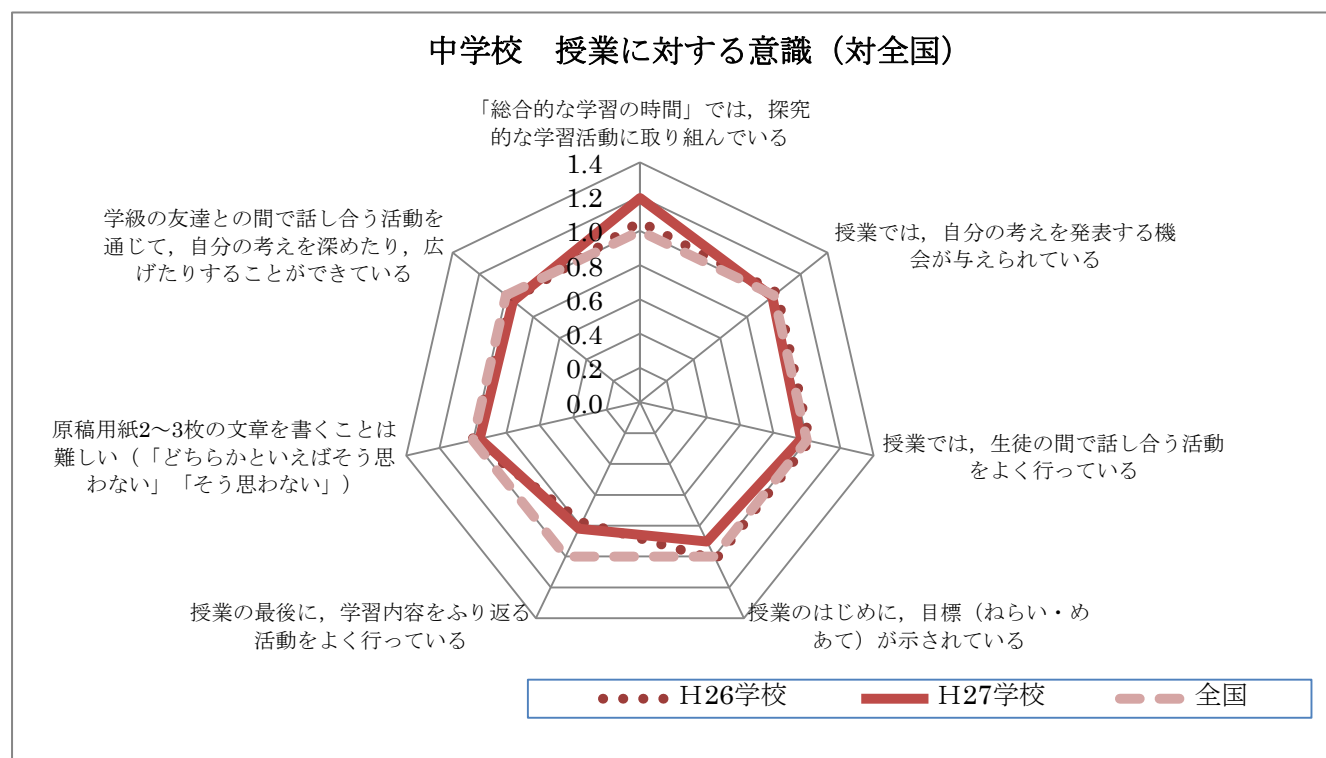
◆国語の授業において、意見を発表するとき話の組み立てを工夫したり、資料をもとに自分の考えを表現したりしていると感じている生徒が全国を上回っています。思考力・判断力・表現力を養う授業の工夫が感じられます。しかし、「国語の勉強が好きだ」と肯定的に答えている生徒は全国より下回っており、（町 50.0 国 60.5 ）生徒たちの国語への意欲・関心を引き上げる指導の工夫が求められます。



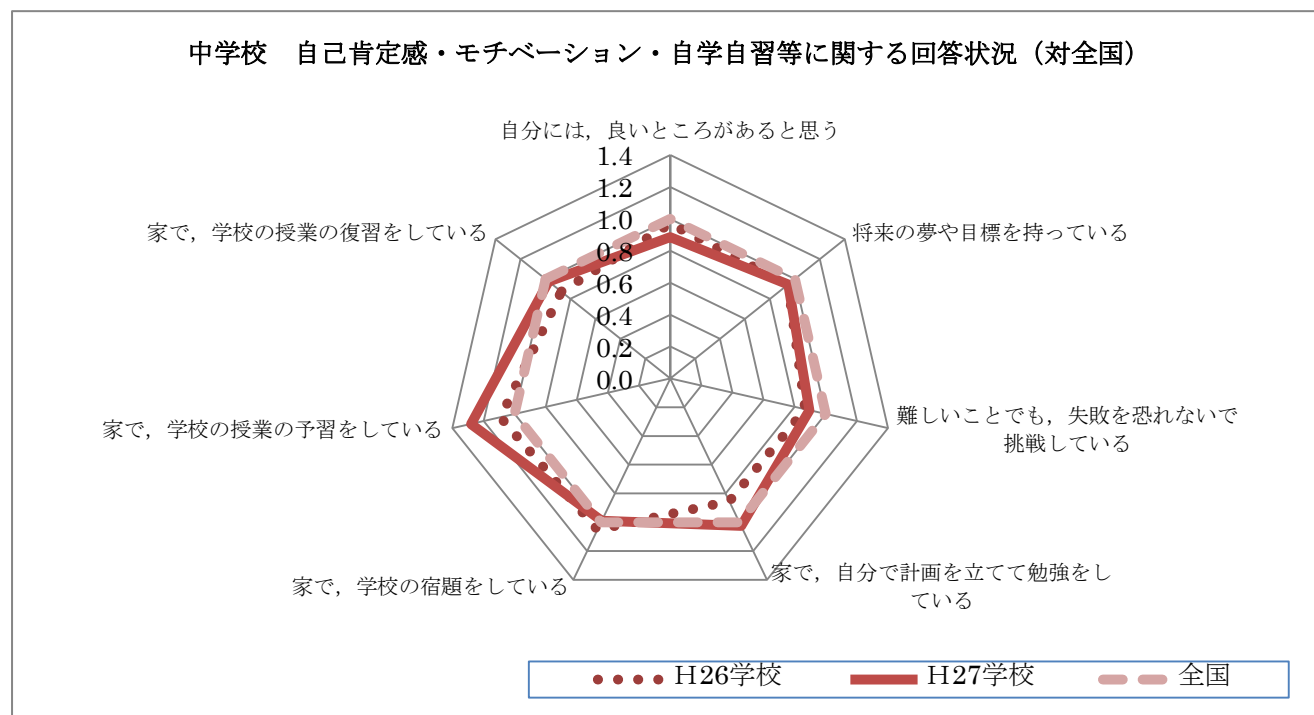
◆数学に関してはほとんどの項目が全国平均を上回っています。これからも少人数分割や習熟度別授業などきめ細かな指導を続けていきます。



◆本町の生徒は自然の中での体験も豊富で（町 80.8 全国 75.5）観察や実験をもとに考察（町 70.6 全国 67.2）する機会は全国と同様にあります。ただし、理科の勉強に対しては苦手意識をもっている生徒の割合が昨年度よりやや増えたようです。



◆授業では言語活動や表現活動、探究的な学習活動に取り組んでいると答えている生徒が全国と同様あるいはそれ以上ですが、授業の目標明示や振り返りをしていないと感じている授業も少なからずあるようです。特に「振り返りをする授業」は学習内容の定着に有効だといわれています。中学校において授業の構造化を広めていく必要があります。



◆家庭学習の手引きや自学自習の支援に取り組んできた一定の成果が見られます。特に予習をする生徒が、全国より 0.2 ポイント上回っています。しかし、自分によいところがあると思う（町 60.5 国 68.1）、失敗を恐れなくて挑戦する（町 61.6 国 68.8）の項目について課題が見え、自分を認め、自信を持って何事にも積極的に取り組む姿勢を育成していかなければなりません。

生活・その他に関わること

全国や大阪府と比較して特徴のある項目、課題がみられる項目についてグラフに表しました。

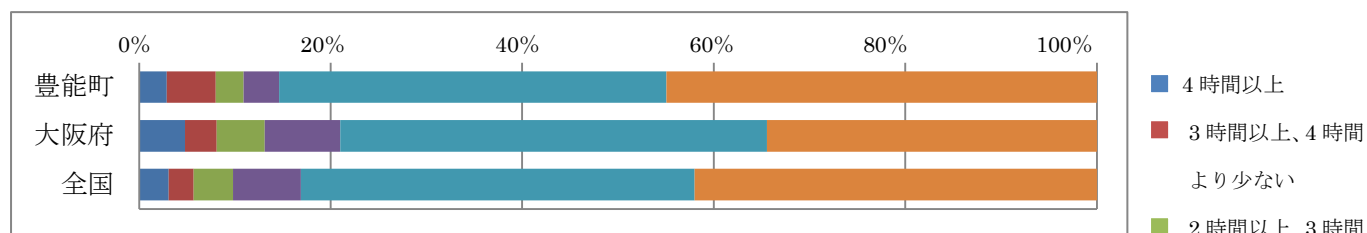
○携帯・スマートフォンの所持率は小 6 生 55.1%、中 3 生 77.4% で全国（小 58.0 中 78.6）よりやや少ないです。

○読書に対して肯定的な回答が増えました。

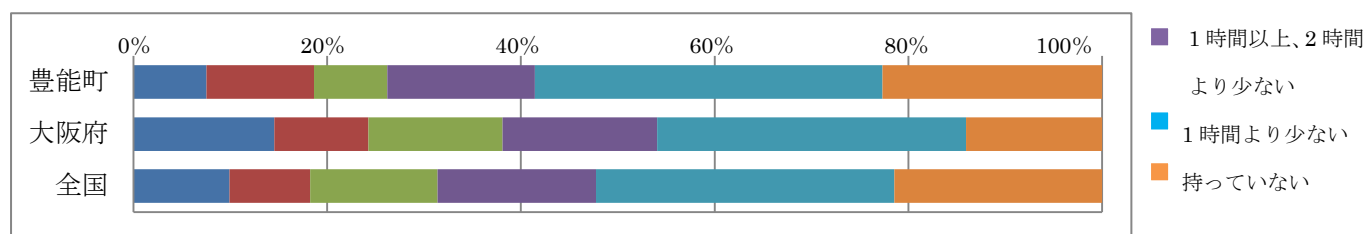
○地域の行事には積極的に関わっています。

(1) 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。

小学校



中学校

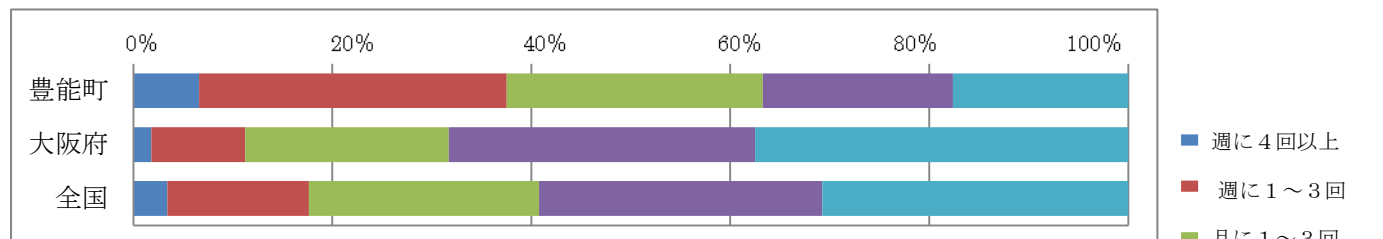


◆ 結果は全国平均とほぼ同じ状況でした。携帯電話・スマートフォンの所持率も年々上がってきているので使い方やマナー、トラブル予防のための指導も家庭と連携して行っていくことが大切です。

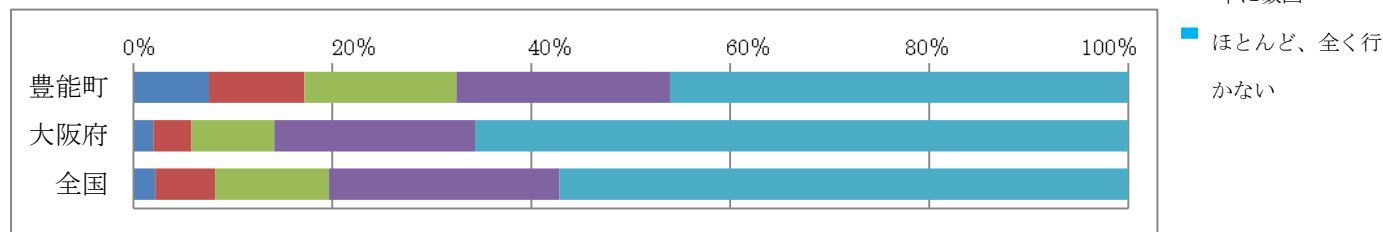
3時間を超える長時間のテレビの視聴やテレビゲームの使用は小学生も中学生も全国平均より低い回答となっています。

(2) 昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、図書館にどれくらい行きますか

小学校



中学校



◆本町では、学校図書館司書を各校に配置し、朝の読書、リレーうちどく(家読)など読書推進に積極的に取り組んでいます。児童・生徒にとって図書館は身近な場所となっています。その成果が表れているのか、読書に関する項目では、次のように肯定的な回答が多い結果となりました。

「読書は好きですか」という問いに「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた割合

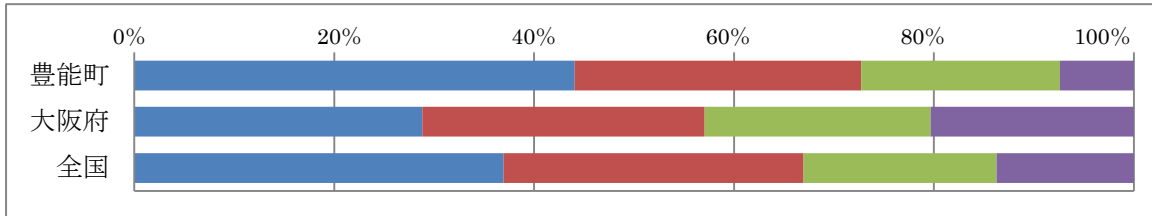
(小学校：町 88.9 全国 72.8 中学校：町 74.0 全国 67.9)

「1日にどれくらいの時間、読書をしますか」という問いに「全くしない」と答えた割合

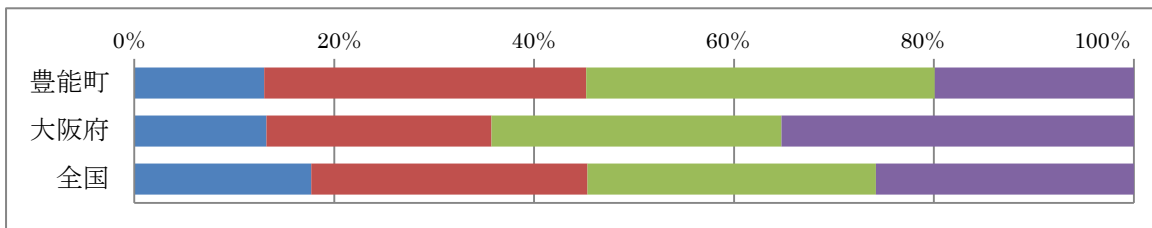
(小学校：町 12.5 全国 19.9 中学校：町 25.3 全国 35.0)

(3) 今住んでいる地域の行事に参加していますか

小学校



中学校

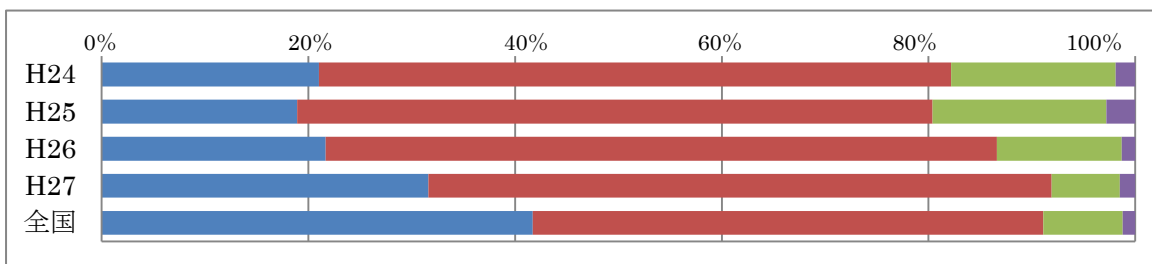


◆各小学校においては日頃から、地域の方が学校サポーターやボランティアとして学校の行事等に関わってくださっています。学校と地域との関係が、児童の地域行事への積極的な参加につながっていると思われます。中学校は部活動や習い事等で忙しくなるのか小学校よりも積極的な関わりは減ってしまいます。

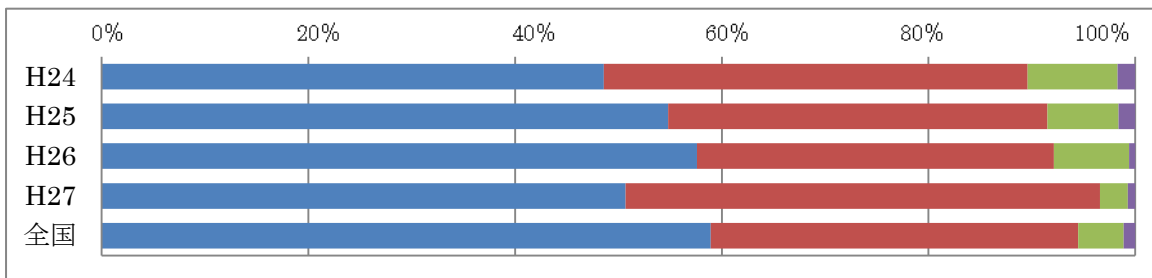
●規範意識や人権意識を高める取組みをさらに推進していく必要があります。

(4) 「学校の規則を守っていますか」

小学校

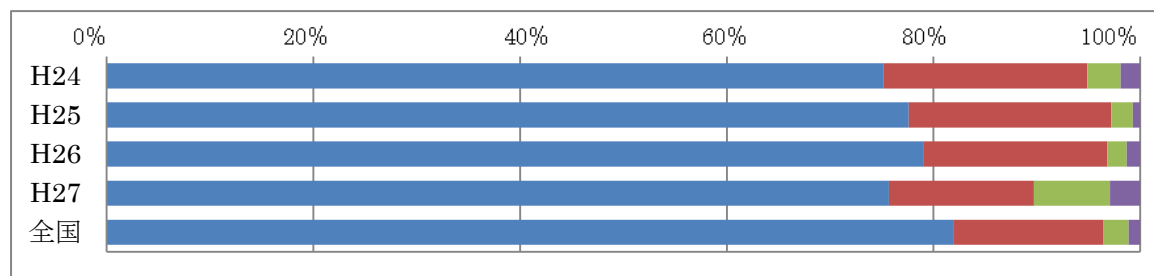


中学校

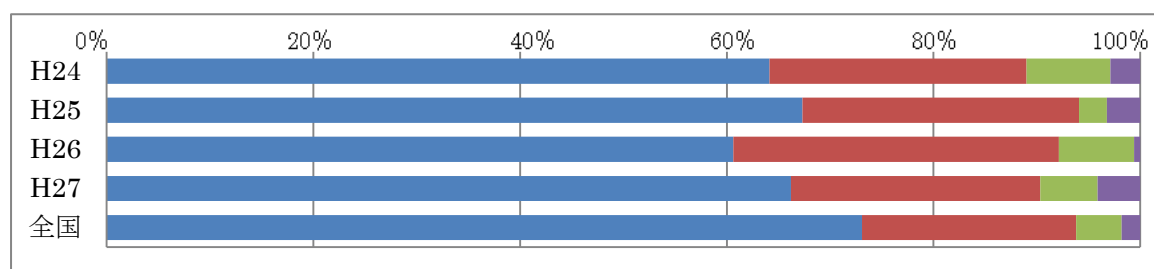


(5) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

小学校

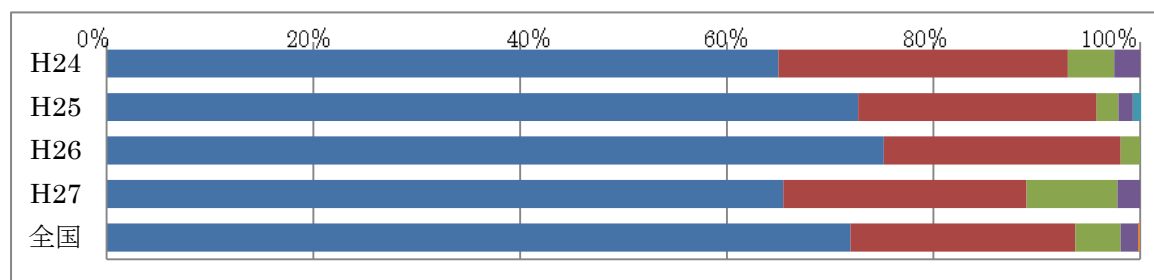


中学校

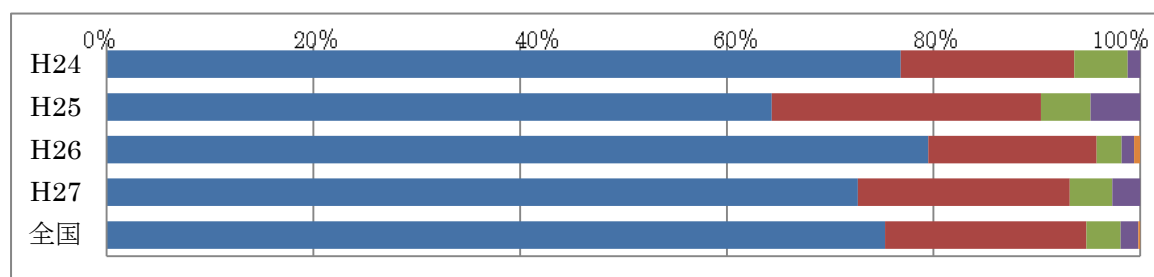


(6) 人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか

小学校



中学校

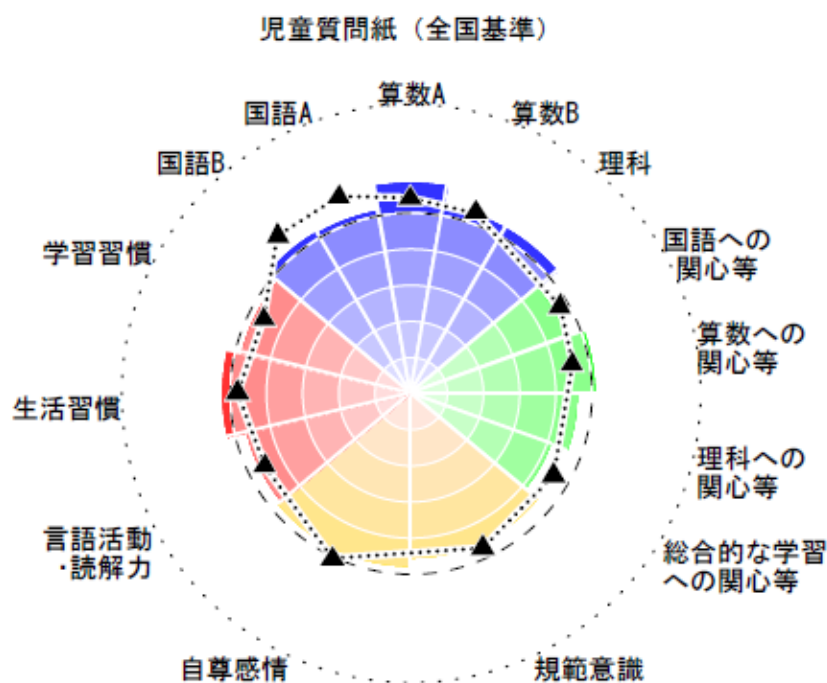


◆「規則を守っている」と回答している児童生徒は増えてきています。しかし、「当てはまる」と自信を持って答えている割合を高めていく必要があります。また、(5)(6)の問いに対して小・中学校とも「当てはまる」と回答している割合が全国を下回っています。人の気持ちが分かる、人の役に立ちたいという気持ちは自己肯定感との関連も深いと考えます。前述のレーダーチャートの「自分には良いところがある」という質問の回答結果も鑑み、自尊感情を高める取組、規範意識や人権意識を高める取組を推進していかなくてはなりません。

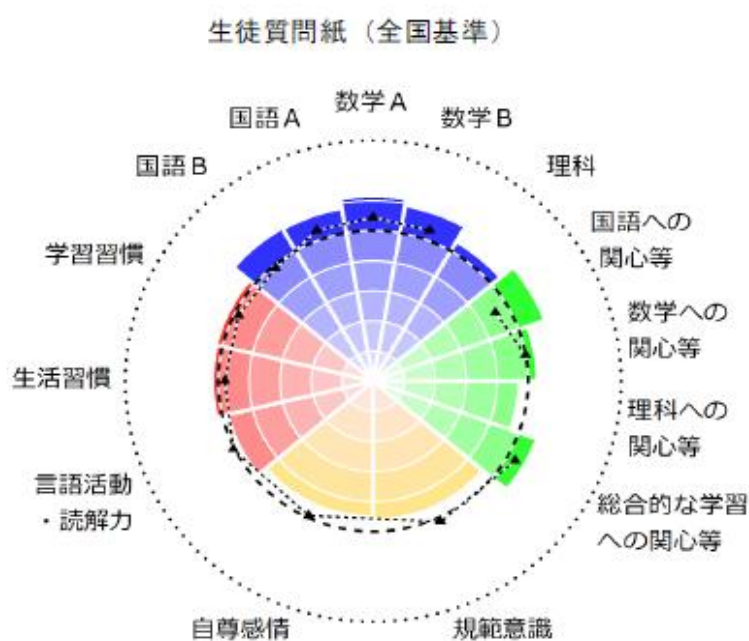
【4】 児童・生徒質問紙、学校質問紙によるチャートグラフ

質問紙調査を項目ごとに集計した結果と、学力調査の結果を、全国平均と比較してレーダーチャートにして比べています。昨年度の町の結果を（▲）で表示しています。昨年度との変化を見ることができます。

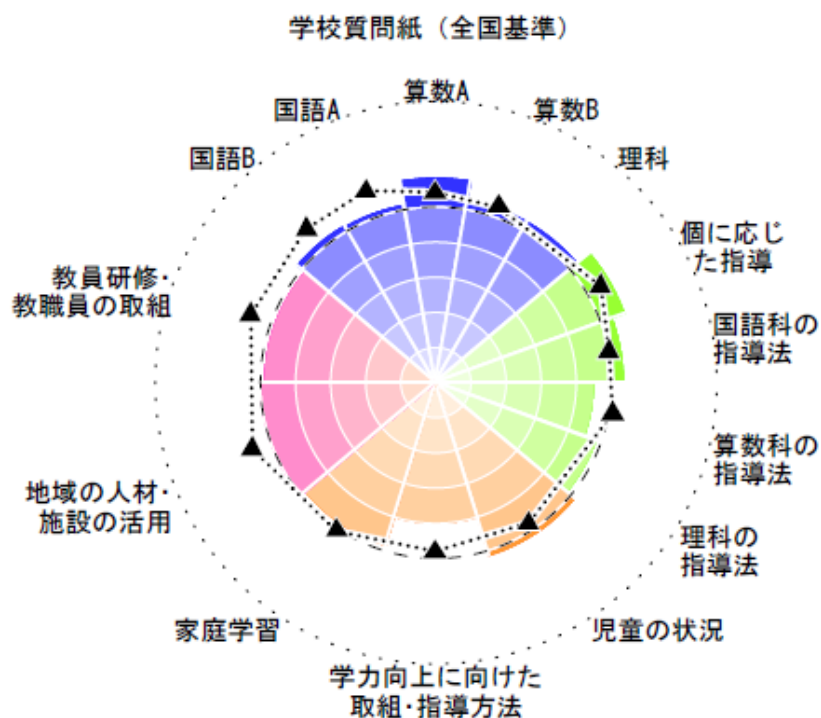
<児童質問紙 小学校>



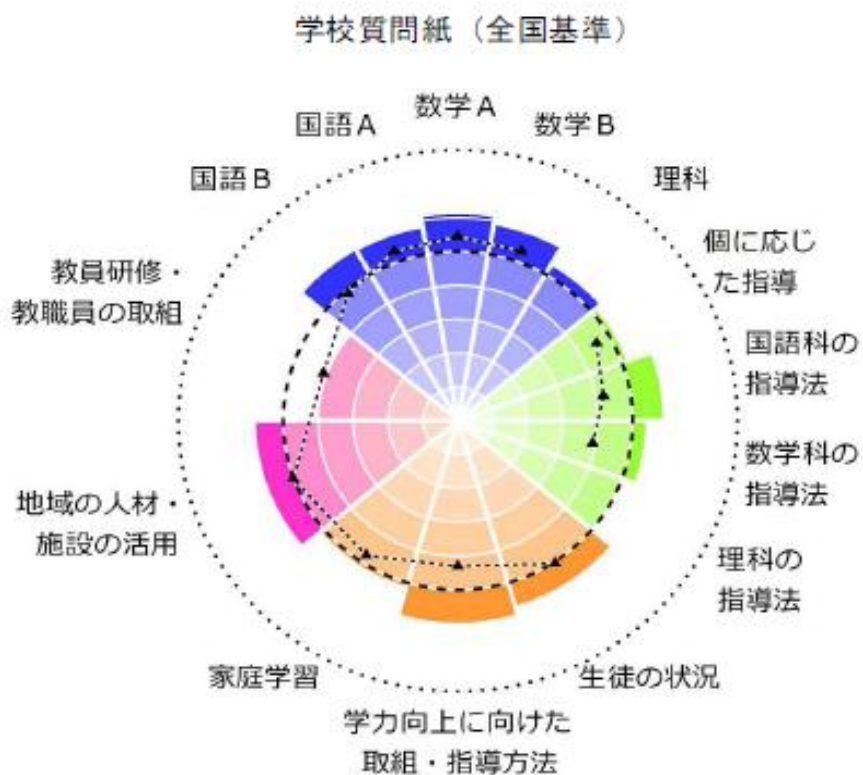
<生徒質問紙 中学校>



< 学校質問紙 小学校 >



< 学校質問紙 中学校 >



【5】平成27年度全国学力学習状況調査結果から見える課題と今後に向けての改善計画

＜課題＞

学力調査： 基礎・基本の定着 思考力・判断力・表現力の育成

- ・基本的な知識・技能を習得しても、持続的に活用することに課題がある。
- ・示された情報や資料をもとに、考察し、自分の意見や考えを記述によって表現することに課題がある。

学習状況調査： 主体的に学ぶ学習意欲 規範意識・人権意識の向上

- ・家で、学校の授業の復習をしている児童生徒の割合が低い。
- ・国語の勉強が好きな児童生徒の割合が全国より低い。
- ・自尊感情・規範意識が対全国比よりも低い。

＜課題解決のために＞

- * 主体的・能動的に学ぶ姿勢を育むため、学ぶ喜びを提供できる授業・学校づくりを推進する。
- * 自分の思いを表現するとともに、習得した技能・知識を活用できる力を育成し、自己の確立に向けた成長を支援する。
- * 自分を肯定的に理解し、可能性を大切に伸ばそうとする姿勢を育てるとともに、他者の気持ちも理解し尊重する態度を育てるため、心の教育を推進する。

＜改善に向けた今後の計画＞

今年度の調査結果を受けて、以下の点について改善に取り組めます。

学校力向上・教職員の授業力向上の推進

- (1) 教職員研修会の充実に努めます。
 - ・町教育委員会主催研修の充実
 - ・教職員の学ぶ機会の提供（豊能地区各市町教育委員会主催研修との相互交流）
- (2) 学校における研究・研修の充実に努めます。
 - ・校内研修への支援（外部専門家派遣、研究成果の共有化）
- (3) 若手教員の指導力向上に努めます。
 - ・経験豊富な教員等の派遣・支援
- (4) 各学校の学力向上プランの活用を推進します。
 - ・町学力向上担当者会での情報提供や指導改善の提案

豊かな心を育てる取組みの推進

- (1) 自尊感情を育て、人権意識を高める教育活動をすすめます。
 - ・ 道徳教育・人権教育の充実のための校内研究支援
- (2) 知識・想像力をふかめる読書を通して豊かな心の育成に努めます。
 - ・ 朝読書・うちどく（家読）・読書感想文コンクール・本のソムリエ認定講習会

学校と家庭との協働・地域との連携の推進

- (1) 「2×2運動」による、健全な生活習慣づくりの大切さを啓発していきます。
 - ・ PTA との連携による研修会・啓発運動
- (2) 家庭学習につながる自学・自習力の育成を支援します。
 - ・ わくわく教室（小学生）や放課後まなび舎・公民館まなび舎教室（中学生）の充実
- (3) 「学校支援地域本部事業」のさらなる充実と他団体との協力を図ります。
 - ・ 地域人材（学校支援ボランティア、サポーター）の活用による授業づくり、学校の居場所づくり 社会教育関係団体との「土曜お楽しみ講座」

「^{ツープイッ}2×2運動」とは

全国学力・学習状況調査が始まった平成19年度から行っている本町独自の啓発運動です。次の2が付く生活習慣を、2人から4人、4人から8人と倍々に増やしていき、広めていきましょう！

★ あいさつはいつもの2倍の声で！「おはよう。こんにちは。おやすみ。」

（あいさつは、いつもの2倍の大きな声で元気よくすると、気持ちよく1日がスタートできます。家庭の中からまずスタートしてみませんか。）

★ 学校（園）が始まる2時間前に起きて必ず朝食を！

（8時30分に学校が始まるのであれば、6時30分には起きて、ゆっくり朝食をとり、余裕をもって「行ってきます。」と言ってみませんか。）

★ テレビ・ゲーム機・携帯電話・パソコンは長くても毎日2時間までに！

（だらだらテレビを見たり、ゲームをしたりしていると、脳の活性化が阻まれます。逆に2時間以内でどのような時間の使い方をしたいのかを考えることは、脳の活性化につながります。2時間をどう使うかを考えてみませんか。）

★ 家族と一緒に毎日20分以上の読書タイムを！

（テレビを消して読書時間をつくったり、本を読むのを聞いてもらったりしましょう。家族全員で読書をすれば、家族の会話もはずみます。活字を通して、いろんな世界をのぞいてみませんか。）